

種苗関係事業者の皆さまへ

サツマイモ基腐病のまん延防止に向けて

以下の症状に心当たりはありませんか？



地上部の生育不良・枯死



株元の茎が黒変



なり首側からの腐敗

サツマイモ基腐病とは

○病原菌

糸状菌（カビの一種）

○宿主植物

ヒルガオ科植物（主にさつまいも）

○病徴及び被害

病徴は茎、地中塊根の褐変（被害が激しい場合は萎れて枯れる）。
病徴は地際部から塊根に向けて進行し、塊根部は暗褐色に変色、硬化して腐敗し、商品価値を失う。

また、さつまいもの品種による感受性の違いも報告されている。

○伝染方法

罹病苗や塊根を植えることによって被害が広まる。

発病株に形成された孢子から、風雨や停滞水により、周辺株に発病が拡大する。

また、土壌中では 感染した植物残さ上で越冬する。

疑わしい株を見つけたら、都道府県の病害虫防除所等にご相談ください。

（種苗の生産・販売に際しての防除対策は裏面に記載）

サツマイモ基腐病のまん延防止に向けた 種苗の生産・販売に際しての留意事項

【種苗の生産者の方へ】

種苗の生産に際しては以下の取組を行って下さい。

○健全な種いも及び苗の確保

- ・ サツマイモ基腐病が発生していないほ場から採取した、健全ないも及び苗を使用。

○種いもの消毒等

- ・ 伏せ込み前に選別した上で、必ず消毒（薬剤又は蒸熱処理）。

○苗床の消毒

- ・ 伏せ込み前に苗床を必ず土壤消毒。
- ・ 消毒には殺菌効果のある剤を使用し、地温が15℃以上確保できる時期に、適切な土壤水分下で実施し、必ず処理時に被覆。

○採苗時の注意

- ・ 苗は株の地際部から5 cm以上離れた位置から採取。
- ・ 採苗当日にベンレート水和剤又はベンレート T 水和剤 20 又はトリフミン水和剤で消毒。
- ・ 消毒液は必ず使用する当日に調製したものを使用。
- ・ 採苗時に用いるハサミはこまめに消毒。

○出荷時の検定

- ・ 苗を出荷する際には、必要に応じて、サツマイモ基腐病の検定を行う。

【種苗の販売者の方へ】

種苗の販売に際しては以下の取組を行って下さい。

○種苗の生産工程の確認

- ・ 買付の際には、種苗生産の過程において、上記の取組が行われていることを確認。

○罹病苗の適切な処分

- ・ 万が一、販売時にサツマイモ基腐病の疑義症状が確認された場合、当該荷口を適切に処分。

○サツマイモ基腐病の発生生態や防除対策に関する技術情報の詳細については、農研機構Webサイトに公表されている、以下のマニュアルを参照ください。

「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策(令和3年度版)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/151859.html

